

特許出願・紛争に勝つための「実験ノート」作成・運用ガイド

実験ノートは、いつ、誰が、何を、どのように考え、実施し、どのような結果を得たかを客観的に追跡できる「一次記録」。
特許先使用权、発明者認定、データ信頼性担保の「客観的証拠」となります。

証拠力を支える「三本柱」



同時性
(コンテンツアセス)

観察、操作、判断を「その時点」で記録し、後からの作文ではないことを証明。

帰属性
(誰め行為か)

記録者の署名、レビュー記録(目撃者)、アクセス権管理により、誰の記録かを明確化。

完全性
(追跡可能性)

試験ロット、装置設定、原データの保存先、改訂履歴を含め、第三者が再境できる状態を確保。

紙 vs 電子(ELN)の比較と落とし穴



紙ノートの強みと注意点


強み: 製本による物理的連続性。
注意点: 罫面使用や空自放置、ページ積はしは証拠力低下。




ELNの強みと注意点

強み: 全文検索や監査証拠。
注意点: 署名後の編集ロック不十分、管理者がログを編集できる設定は致命的。


実務で必須となる主要な記載項目




日付・署名・目撃者 (Witness)
面談での日付、本人自署に加え、伎術を避ける第三者の署名(Read & Understood)。



実験条件・試器ロット・装置限定
温度、圧力、換給者、ロット番号、爆発型式、ソフトのバージョンなど、再現に必要な全要素。



原データの保存先と改ざん防止
生データのファイル名やハッシュ値を記し、紙なら保証不可、ELNなら監査証拠(権限管理)を控す。



発明の着想・時系列の証拠
課題、仮説、試作、評価、改良のプロセスを遡書で管理し、会議での従業者も明証。

証拠力を落とす典型的な不備パターンと対策

項目	証拠力を落とす典型パターン	対策(仕組み)
物理的構成	ルーズリーフ、ページの差し替え	製本ノート、連続ページ、空白は斜線で消去
訂正方法	修正液の使用、上書き消去	二重線+日付+印、ELNは監査証拠を残す
客観性	証人(レビュー)がない	第三者の定期署名(Witnessing)のルール化
データの紐付け	原データが個人PCに散在	保存先の統一、ファイルID/ハッシュの記載

運用ガバナンスのチェックリスト

- 記録: 当日中の完結(事実と考察を区別し、観察結果は即座に記載)
- 保管: 一元管理と物理的分離(紙は管理者一元保管、ELNは本番環境から分離したバックアップと復元テスト)
- 監査: 定期的なログ確認(システム管理者による偽作ログを含め、不適切な変更や削除を定期チェック)